

令和8年熊本地震における被害と対応について

令和8年熊本地震による道路の被災・復旧状況

○令和8年7月28日16時27分に熊本県において最大震度7とする地震が発生。発生後翌朝には直轄国道(3号・57号)のアクセスを確保。

○高速道路は、発災当初、約142kmにわたり規制を実施していたが、発災から2週間後の8月14日に九州道全線で、発災から3週間後の8月18日に、九州道・南九州道(八代JCT～八代南IC間を除く)の全線で、一般車両の通行を確保。

【発災(7月28日)直後】



主要アクセスルートが通行止め

【8月1日】(発災から4日後)



各方面から被災地への緊急車両の通行を確保

■国道3号(氷川町付近)



＜被災状況＞



＜復旧状況＞

■九州自動車道 川田橋



＜床版損傷部 応急復旧＞



＜応急復旧後対面通行で交通確保＞

【8月11日】(発災から約2週間後)



九州道全線で、緊急車両の通行を確保

【8月18日】(発災から3週間後)



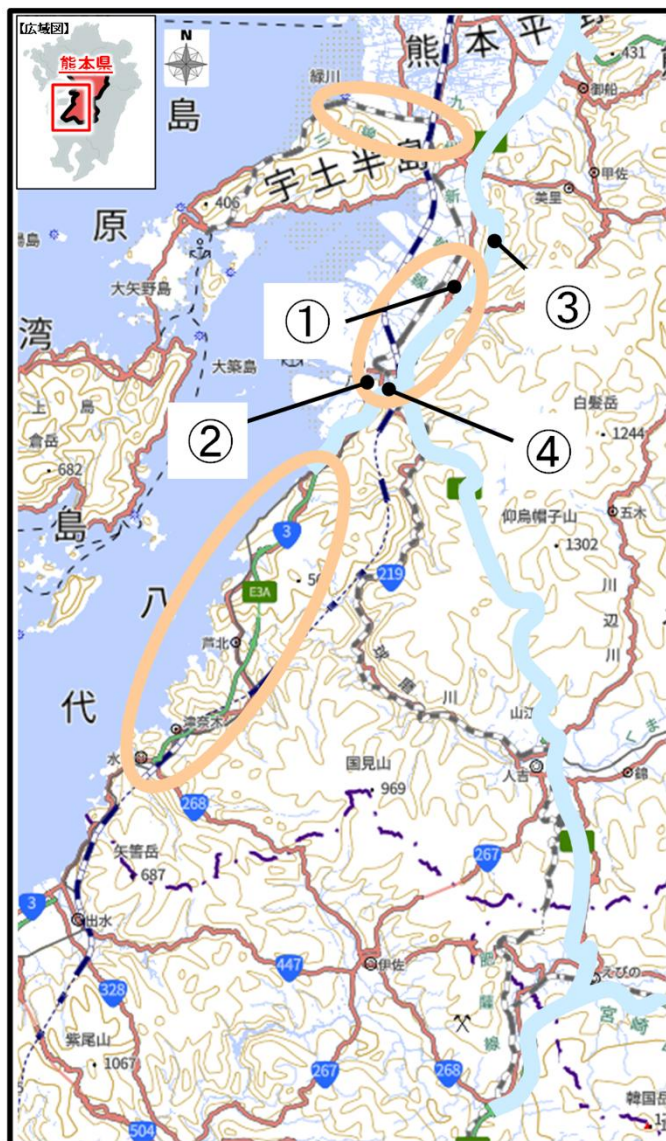
南九州道(八代南IC～田浦IC)の
一般車両の通行を確保

凡 例

—	通行止め区間
—	通行止め区間(緊急車両通行可)
—	高速道路
—	国道3号、国道57号、国道219号
—	県道338号、県道14号

○令和8年熊本地震により被災した、国が管理する国道3号等及び西日本高速道路株式会社(NEXCO西日本)が管理するE3九州自動車道等の災害復旧事業を実施中。

○甚大な被害が発生した南九州自動車道(八代JCT~八代南IC間)の妙見第一橋は、有識者による検討委員会を設置し、復旧方法を検討中であり、通行止め解除に少なくとも2年を要する見込み。



【直轄国道】

①国道3号
(熊本県八代郡水川町~八代市)



②国道3号
(熊本県八代市)



【高速道路(NEXCO区間)】

③E3 九州自動車道
(植木IC~栗野IC)



④E3A 南九州自動車道
(八代JCT~日奈久IC)



- 令和8年熊本地震の発生後、全国の地方整備局等からTEC-FORCEを派遣し、被災状況調査など実施・支援。
- また、全国各地の防災道の駅等に設置している防災用コンテナ型トイレを、合計16台派遣。
- 国土交通省が保有する散水車(給水機能付)による被災者への給水支援なども実施。

TEC-FORCE隊員による被災状況調査



道路の被災状況調査（氷川町）



道路の被災状況調査（氷川町）

被災状況調査の結果報告



被災状況調査の結果報告（宇土市）

防災用コンテナ型トイレの派遣



道の駅竜北での支援状況（氷川町）

散水車(給水機能付)による給水支援



被災者への給水支援（宇土市）



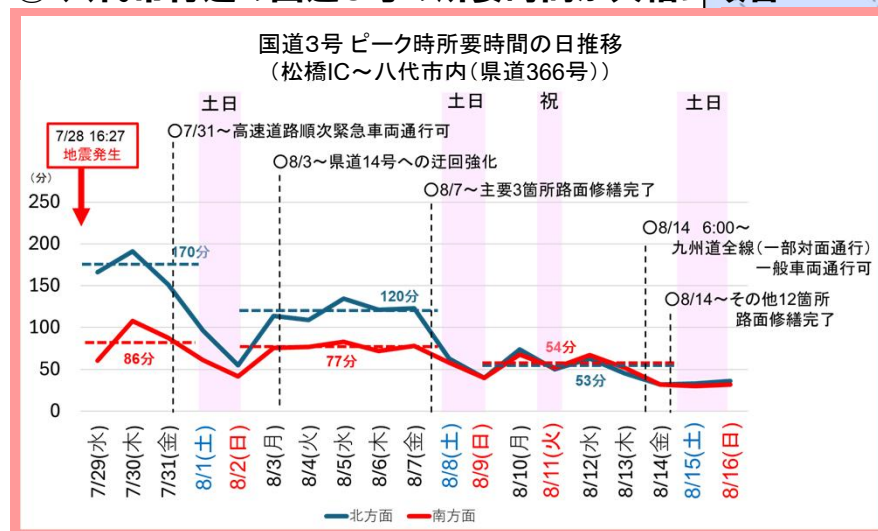
貯水槽

簡易水道貯水槽への給水（嘉島町）

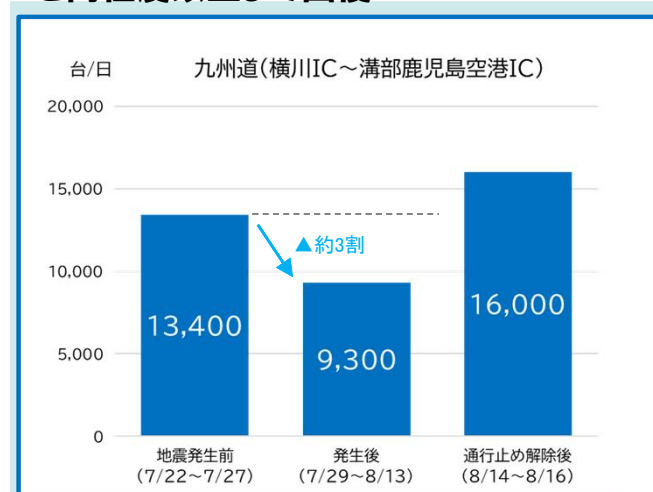
九州道の通行止め解除に伴う交通状況の変化(全車)

- 九州道の通行止めに伴い、東九州道が広域的な迂回路として機能し、被災地周辺への交通流入の抑制に寄与
- お盆期間の東九州道への広域迂回を呼び掛けるとともに、料金調整を8月7日から16日まで実施
- また、九州道の通行止めの解除(8/14)により、被災地での交通混雑は大幅に改善され、迂回により交通量が増加していた東九州道はお盆期間中でも渋滞が発生していない

① 八代市付近の国道3号の所要時間が大幅に改善



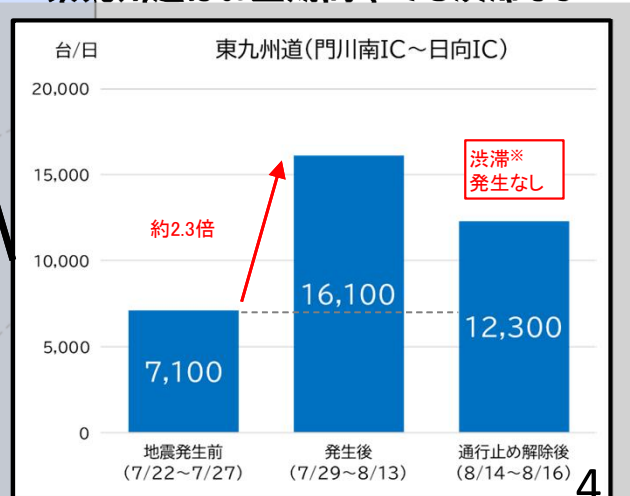
② 鹿児島県内の九州道の交通量は被災前と同程度以上まで回復



発災直後、広域迂回ルートを案内 (九州地方整備局、NEXCO西日本)



③ 迂回により交通量が増加していた東九州道はお盆期間中でも渋滞なし



●一般県道八代不知火線 ^{やつしろ しらぬい} 砂川大橋 ^{すながわおおはし}における耐震補強

- 熊本県宇城市の一般県道八代不知火線 砂川大橋において、「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」として、橋梁の耐震補強（耐震性能2）を実施。（令和3年度に対策完了）
- 令和8年7月28日に熊本県熊本地方を震源とする地震では、^{まつばせまち}宇城市松橋町で震度6強を観測したが、当該施設においては大きな被害は生じず、第2次緊急輸送道路のネットワークの機能を維持した。

位置図



対策前・対策後



〈施工完了（拡大）〉



〈施工完了（拡大）〉



※耐震性能2を満足する補強を実施
（速やかな機能回復が可能な性能を目指す対策）